

No.	1
コード	OPNC-a
開講形式	対面
区分	開講式
科目	養蜂アカデミーの役割 日本の養蜂産業の現況（概要）
講師	高安和夫
背景	（省略）
目的	養蜂アカデミーの設立目的を紹介し、養蜂業界への貢献について理解を得る。
概要	養蜂学や蜜蜂の生態を知り、より良い養蜂導入について解説する。 現在の養蜂業界の課題と将来の展望について概観する。
到達目標	・養蜂アカデミーについてその趣旨を理解し、積極的に受講する心構えを作る。 ・養蜂業界の現状について知識を得る。 ・自分の養蜂事業についてイメージを膨らませる。
講義内容	養蜂アカデミー開設の目的やその役割について解説する。 養蜂業界の現状の課題等を開設する。 養蜂業を新規事業として始めた全国の事例紹介
参考資料	「養蜂をめぐる情勢」 農林水産省 HP



No.	2	
コード	OPNC-b	
開講形式	対面	
区分	導入	
科目	ミツバチと養蜂の 1 年	
講師	春日住夫	
背景	養蜂は周年活動である。	
目的	養蜂の 1 年の流れを理解するとともに、養蜂家となるための基礎的な知識を習得する。	
概要	養蜂の一年の流れを理解する。 ミツバチの生態に基づいた養蜂を心掛ける。	
到達目標	・ミツバチの 1 年の流れを理解し、解説できる。 ・セイヨウミツバチの年間の養蜂技術について必要な知識を習得する。 ・ミツバチの基本的な生態を理解できる。	
講義内容	「やさしい養蜂のはじめ方」より 養蜂家の干渉を最小限におさえた養蜂 ミツバチの 1 年～ミツバチは自分たちで生きていける やさしい養蜂の 1 年～難しいから簡単に ミツバチの生態の 1 年 夏至、冬至とミツバチ 蜂児圏を大切に～形を変えない	
参考資料	「やさしい養蜂のはじめかた」みつばち協会 HP YOUTUBE 蜂ちゃんねる	



No.	3	
コード	RT01-a	
開講形式	リモート	
区分	養蜂学	
科目	世界と日本のミツバチ	
講師	中村純	
背景	養蜂は飼養するミツバチの基本的性質によってそのスタイルが異なる。	
目的	海外のミツバチ事情（生態、利用）について情報を得る。 家畜種セイウミツバチと野生種ニホンミツバチの差を理解する。	
概要	今日養蜂で用いられているセイウミツバチの代表的な系統を知り、また日本国内のミツバチ事情を理解する。	
到達目標	・セイウミツバチの代表的系統とその性質差を理解できる。 ・セイウミツバチとニホンミツバチの基本的な差を理解できる。 ・ハナバチとしてのミツバチの役割と採蜜家畜としてのミツバチの役割を説明できる。	
講義内容	世界の養蜂で用いられるミツバチについて セイウミツバチの代表的系統とその特性～ハチミツの生産性が高いとはどういうことか セイウミツバチとニホンミツバチの見分け方 セイウミツバチとニホンミツバチの基本的な性質差 セイウミツバチとニホンミツバチの飼養における差	
参考資料	「世界のミツバチ・ハナバチ百科図鑑」 「ミツバチの教科書」	



No.	4	
コード	RT01-b	
開講形式	リモート	
区分	養蜂学	
科目	社会性昆虫としてのミツバチ	
講師	中村純	
背景	ミツバチは社会性昆虫として、生物界のひとつの頂点にいる生物である。	
目的	ミツバチが高度な社会を営む昆虫であることの理解が、この動物を飼養する上で重要なポイントとなる。ミツバチの社会を理解して、飼養管理や生産管理をどのように進めるべきかを理解する。	
概要	高度なミツバチの社会（コロニー）を概観し、なぜそのようになっているのかを理解するための基本情報を身に付ける。	
到達目標	・コロニーに1匹しかいない女王蜂は、なぜ多回交尾をするのかを説明できるようになる。 ・働き蜂の分業の意義について理解できる。 ・ダンス言語の成因とその利用について理解できる。	
講義内容	社会を支える高度な働き蜂の能力 雌におけるカースト分化（生殖カーストと労働カースト） コロニーとは何か、「群れ」とは何が違うのか 女王蜂の多回交尾と働き蜂の遺伝的多様性と分業 貯食性～大量のハチミツを貯えるのは何のため？ 巣内環境の恒常性の維持 高度なコミュニケーションとその利用	
参考資料	「ミツバチの生物学を養蜂に活かす」 「ミツバチの教科書」	



No.	5	
コード	RT02-a	
開講形式	リモート	
区分	養蜂学	
科目	養蜂技術の発達史	
講師	中村純	
背景	現在、世界中で行われている養蜂の基本スタイルは 178 世紀に発達した近代用を基礎としている。	
目的	現在普及している養蜂技術（近代養蜂）が成立してきた背景と先人の着眼を理解し、ミツバチを飼養する技術の基礎を学ぶ。	
概要	近代養蜂は 18 世紀に欧米を中心として発達した技術体系である。各国に、多くの場合ミツバチとともに導入され、各国それぞれの様式に落ち着いている。体系が成立した背景を知り、日本の技術体系と現在の養蜂の在り方について学ぶ。	
到達目標	・主要な近代養蜂技術の発明を学び、根底にある科学的根拠を説明できる。 ・技術の背景にある科学を学ぶことで、理論的に技術を理解できる。	
講義内容	ビー・スペースの発見と可動枠式巣箱 巣礎の利用と巣板の再利用 採蜜用遠心分離器の発明 燻煙器 女王蜂養成技術 その他の具の発明 近代養蜂の功罪 日本の養蜂の基礎になっている移動養蜂	
参考資料	「ミツバチの教科書」	



No.	6
コード	RT02-b
開講形式	リモート
区分	養蜂学
科目	周辺配慮，労働災害防止，農薬・鳥獣害
講師	中村純
背景	養蜂を行うことで発生し、他者に影響を与える諸問題は、養蜂の負の側面でもあり、養蜂家自身が当事者となって解決の道を探る必要がある。
目的	養蜂そのものが被害を受ける者、養蜂家自身の生命に係わるもの、周囲の他者に影響を与えるものなど多様な問題が発生するが、具体的にどのような状況で各種のトラブルが起き、どのように解決できるかを学ぶ。
概要	養蜂が行われている場所周辺では刺害への不安、糞害などが行政への相談件数としても多い。また養蜂家自身の刺針によるトラブルも発生数が多い。また周辺の農家が使用する農薬による薬害、クマによる獣害など、養蜂家だけでは解決が困難な問題も多い。解決のための道筋もそれぞれ大きく異なる。
到達目標	・自分が養蜂を行う場所の周辺住民との間で起きるトラブルを把握する（周辺住民のすべてがミツバチを好きなわけではないことを理解できる）。 ・農薬被害については正しい認識を持ち、周辺農家との関係性の維持が重要であることを理解できる。 ・自分自身におよぶ問題について、予防と発生時の対策を構築しておく。
講義内容	刺害への不安について（ミツバチだけではない刺害） 糞害はなぜ起こるのか、起きた場合の対処について（糞害を防ぐ唯一の手段は蜂群の撤去である） 農薬被害とは何か、その被害の原因が農薬であることの証明は難しい クマによる養蜂被害とその防止策 養蜂現場で起こる労働災害について（刺針事故とエピペン処方） 病群の放置が起こす大きな問題 ミツバチの飼養者はミツバチが起こすすべての事象について責任を負う
参考資料	「クマによる養蜂被害防除」



No.	7	
コード	RT03-a	
開講形式	リモート	
区分	飼養	
科目	飼養 1 養蜂器具(蜂具)	
講師	春日住夫	
背景	採蜜までを含めて飼養の現場で行うことの多い日本では、養蜂家が多様な器具とその扱いを覚える必要がある。	
目的	日本の主要な養蜂器具を理解するとともに、養蜂家となるための基礎的な知識を習得する。	
概要	主要な養蜂器具、追加の養蜂器具、バリエーション、日本の養蜂器具事情 くん煙器の使い方、ハイベツール（プロポリスの掃除）、隔王板の使い方、王籠の使い方（女王蜂隔離）、採蜜道具	
到達目標	・セイウミツバチの養蜂の基本的技術を理解できている。 ・セイウミツバチの養蜂器具の使用方法和養蜂技術の関係性を表現できる。	
講義内容	1 年の流れと必要な養蜂器具 最初準備するもの～種蜂、巣箱、継箱、巣枠、半盛り巣礎、巣礎枠 ＊ 巣箱のサイズと使用方法 ＊ ラ式とホ式、コマについて 内検に必要な養蜂器具～ハイベツール、くん煙器、刷毛 採蜜に必要な道具～隔王板はいつ使うか、遠心分離機、蜜濾し器、蜜受器、一斗缶、パン切包丁その他必要な道具 ダニ対策に必要な養蜂器具～王籠、ダニ薬 蜂蜜販売～瓶詰め用タンク、瓶 道具の手入れと蜂具事情	
参考資料	「やさしい養蜂のはじめかた」みつばち協会 HP YOUTUBE 蜂ちゃんねる	



No.	8	
コード	RT03-b	
開講形式	リモート	
区分	飼養	
科目	飼養 2 養蜂場	
講師	春日住夫	
背景	養蜂場は、一般的な畜産における畜舎とは異なり、周辺の状況までを勘案して選定し、また屋外での設営となる点でも留意すべき点が多い。	
目的	養蜂場に必要な条件を理解し、最適な養蜂場の確保、巣箱の設置位置を理解する。	
概要	場所の選定，設置条件，蜂群配置，作業空間としての養蜂場	
到達目標	・セイヨウミツバチの最適な養蜂場の条件を理解する。 ・養蜂場の選び方を理解し持続可能な養蜂を目指す。	
講義内容	ミツバチ飼育届出前に農林事務所等で確認～養蜂場を始める前に 養蜂場に適切な場所とは～風向き、日差し、近隣の交通量 養蜂場の近くはないほうがよいもの・注意点～駐車場、学校、人が通るところ 暑さ寒さ対策～屋根や日陰（グリーンネットや寒冷紗） 鳥獣被害対策～森林の更新と蜜源・花粉源植物について 養蜂場の探し方・見つけ方～周囲の蜜源環境 近隣に養蜂家がいたらどうすればよいか 養蜂場は何か所必要か 養蜂場に合わせた養蜂経営管理の考え方	
参考資料	「やさしい養蜂のはじめかた」みつばち協会 HP YOUTUBE 蜂ちゃんねる	



No.	9	
コード	RT04-a	
開講形式	リモート	
区分	飼養	
科目	飼養 3 栄養	
講師	中村純	
背景	ミツバチは他の家畜と異なり、食べ物に関しては基本的に自立した生き物である。	
目的	ミツバチの食べものが「花蜜」と「花粉」というように単純なものではないことを理解し、補助的に養蜂家が行う給餌の意味を学ぶ。	
概要	花蜜と花粉は基本的に加工されて、コロニー内の需要に応じて利用される。 補助的な給餌はどこまで必要かを理解する。	
到達目標	・花蜜と花粉の栄養学上の位置づけを正しく理解している。 ・代用花粉・糖液給餌の必要性を理解し、飼養管理での判断に利用できる。	
講義内容	ミツバチが利用する花蜜の特性～花蜜は多様 ミツバチ利用する花粉の特性～花粉は何のために必要か 花蜜は加工して利用する（糖質源はエネルギーの素） 花粉は加工して利用する（タンパク質源は体構築の素） 糖液給餌 代用花粉の給餌は必要か	
参考資料	「ミツバチの生物学を養蜂に活かす」	



No.	10	
コード	RT04-b	
開講形式	リモート	
区分	飼養	
科目	飼養 4 資源	
講師	中村純	
背景	ミツバチは必要な栄養を周囲の植物資源に依存する。一般的に半径 2～3km 程度の採餌圏を持ち、年間を通じて、そこにある植物を利用している。	
目的	養蜂におけるミツバチの飼養も、ミツバチが利用する植物相に依存して成立していることを理解し、よりよい資源を構築するためには何をすべきかを学ぶ。	
概要	ミツバチの採餌圏とその利用の実態、植物の蜜源・花粉源としての資源的価値、蜜源増殖の在り方について学ぶ。	
到達目標	・ミツバチの採餌圏を時空間的に把握できる。 ・採餌圏の植物相、ミツバチによるその利用実態を理解している。 ・蜜源増殖の考え方、実践方法の知識を得て、必要なときに応用できるようにする。	
講義内容	ミツバチの採餌圏は半径 2～3km、面積にして 1200～2800ha にも及ぶ。 ハチミツを採るための蜜源植物は、ミツバチを一年中養ってくれるわけではない。 花蜜を生産しない植物もミツバチはよく利用する。 花粉も花蜜もあるのに、他の植物の存在で利用性が変化することもある。 蜜源増殖か、養蜂資源増殖か？ 自分で作れるお花畑の価値。	
参考資料	「ミツバチの生物学を養蜂に活かす」	



No.	11	
コード	実習	
区分	基礎実習	
科目	実習 1 内検の基本	
参 考 資料	「やさしい養蜂のはじめかた」みつばち協会 HP YOUTUBE 蜂ちゃんねる	
講師	春日住夫	
背景と目的	現地での実習を通じて養蜂の基本的技術習得を目指す。	
概 要	内検の実習、基本的な養蜂場の作業 「やさしい養蜂のはじめかた」	
到達目標	・セイヨウミツバチの基礎的な蜂群管理の手法を理解する。 ・内検の一連の流れを理解し蜂群を維持することを目指す。	
講 義 内 容		
養蜂場での安全管理について		
養場への移動と道具について		
内検前の作業、道具の配置		
燻煙器のつけ方		
内検の手順		
内検が終わったら～片付け		
養蜂具の管理と衛生について		
年間管理と内検について		
評価方法と基準	Ⅳ 評価方法と評価基準による	
開催形式	実習	

No.	12	
コード	PRCT-b	
開講形式	実習（対面）	
区分	基礎実習	
科目	実習 2 越冬の準備	
講師	春日住夫	
背景	持続可能な養蜂においては、越冬の成否が大きなポイントになる。	
背景と目的	現地での実習を通じて健勢や越冬などの技術を学び、持続可能な養蜂を目指す。	
概要	採蜜群の建勢法，冬越しの準備、女王蜂の隔離、ダニ駆除剤の使用 ＊飼育について疑問・質問にもお答えします。	
到達目標	・セイヨウミツバチの年間管理の具体的な手法を理解する。 ・個別の疑問解消や養蜂技術のスキルアップを目指す。	
講義内容	採蜜群と育成群とは 年間管理～春の健勢と気温のタイミング ダニ対策と女王蜂隔離について 王台の見逃しを防ぐ 分蜂対策と流蜜期 採蜜のタイミング～糖度計を使おう 女王育成とバックアップの必要性 夏至後見逃しがちな作業	
参考資料	「やさしい養蜂のはじめかた」みつばち協会 HP YOUTUBE 蜂ちゃんねる	



No.	13
コード	RT05-a
開講形式	リモート
区分	飼養
科目	飼養 5 内検（巣箱の点検）
講師	春日住夫
背景	内検は養蜂の基本作業であり、その都度多様な目的を持って行われる。
目的	内検の意味、手順を理解し、最適な養蜂技術の習得を目指す。
概 要	巣箱の内検手順 くん煙器の使用方法、巣箱の開け方、内検の手順
到達目標	・セイヨウミツバチの内検の手順、順序を理解する ・くん煙器を始めとした適切な養蜂具の使用方法を理解し、事故なく作業を行うことができる
講義内容	内検の意味・頻度について～1年の流れと内検から 内検に必要な養蜂具と管理、装備について 巣箱を開けるその前に必要なこと～養蜂場の観察 くん煙器のつけ方・道具の配置 内検の手順について 女王蜂・蛹・幼虫の観察について 内検と記録について 内検の事故防止のための注意点
参考資料	「やさしい養蜂のはじめかた」みつばち協会 HP YOUTUBE 蜂ちゃんねる



No.	14	
コード	RT05-b	
開講形式	リモート	
区分	飼養	
科目	飼養 6 年間管理	
講師	春日住夫	
目的	養蜂は季節に応じて必要な管理作業が変化する。	
目的	年間管理の具体的な技術を理解し、最適な養蜂技術の習得を目指す。	
概要	養蜂の 1 年～建勢，継箱の足し方、分蜂管理，採蜜，ダニ防除，越冬	
到達目標	・セイヨウミツバチの年間管理から具体的な蜂群管理の手法を理解する。 ・年間管理を理解して蜂群を持続できる養蜂を目指す。	
講義内容	1 年の流れと内検の関係について やさしい養蜂と年間管理について 夏至と冬至、地域性と季節に応じた蜂群管理の考え方について ダニ防除の基本的な考え方について～現場での対応法について 春の健勢～蜂児圏を大切に 継箱のタイミングと採蜜の見極めについて 夏至以降の内検とダニ対策、スズメバチ対策 越冬準備と春につながる考え方	
参考資料	「やさしい養蜂のはじめかた」みつばち協会 HP YOUTUBE 蜂ちゃんねる	

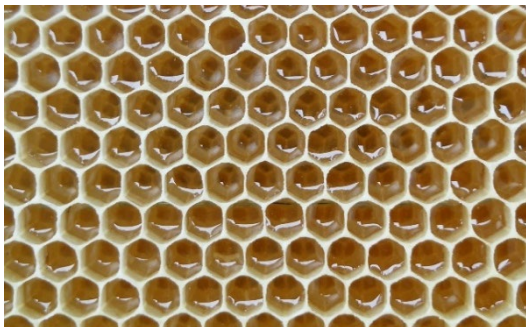


No.	15
コード	RT06-a
開講形式	リモート
区分	生産
科目	採蜜・加工での衛生管理
講師	渡辺 宏
背景	はちみつはあくまで食品であり、その製造にあたっては衛生的な管理が必要である。
目的	安全なはちみつ製品を製造するための基礎的な知識を習得する。
概要	採蜜作業及び、ビン等容器への充填作業時における公衆衛生上の配慮
到達目標	・適切な糖度のはちみつを生産するための注意点を理解している。 ・はちみつを入れる容器の選定、管理、使用方法を理解している。 ・採蜜時及び容器への充填作業時に配慮すべき事項を理解している。
講義内容	適切な糖度を確保するための採蜜時期の見極め 採蜜場所の決定と衛生管理 採蜜に使用する道具及び水の衛生管理 採蜜作業時における作業員の教育と衛生管理 はちみつの運搬、保管における注意点 はちみつを入れる容器の選定、管理、使用方法 容器への充填作業時に配慮すべき事項
参考資料	養蜂 GAP 導入の手引書



No.	16	
コード	RT06-b	
開講形式	リモート	
区分	生産	
科目	蜂群の作り方、蜜蜂（種蜂）販売	
講師	渡辺 宏	
背景	養蜂のひとつの目的に蜂群の育成と販売がある。	
背景と目的	新たな蜂群を効率良くつくり、目的に応じた蜂群を供給する。	
概要	種蜂や花粉交配用ミツバチの作り方	
到達目標	・蜂群供給に向けた年間計画が立てられる。 ・女王の育成ができる。 ・目的に合った蜂群が作れる。	
講義内容	年間計画の作成 割り出し用の蜂群の準備 女王の育成 花粉交配用蜂群の種類と販売 種蜂の育成と販売	
参考資料	近代養蜂（渡辺孝・寛） 蜜量倍増みつばちの飼い方（干場英弘） 養蜂家向け養蜂マニュアル（みつばち協議会）	



No.	17	
コード	RT07-a	
開講形式	リモート	
区分	生産物	
科目	ハチミツ	
講師	中村純	
背景	養蜂の主生産物であるハチミツは、蜜源や採蜜法によって多様化する。	
目的	ミツバチがどのようなゴールを設定してハチミツを作るのかを理解し、私たちがハチミツをどのように扱うべきかを学ぶ。	
概要	ミツバチが作るハチミツと、それを利用する私たちにとってのハチミツを比較考察する。 養蜂家がハチミツをどう作るかの基本的姿勢・技術について理解する。	
到達目標	・ミツバチがハチミツを作る目的、基本的原理を表現できるようになる。 ・養蜂家がどのようにして訴求性のあるハチミツを作れるのかを理解する。 ・養蜂技術とハチミツの品質の関係を知識として習得する。	
講義内容	ミツバチが作るハチミツ（原料から完成まで） 養蜂家が作るハチミツ（生産技術） ハチミツの成分 ハチミツの品質規格 単花ハチミツ（単花蜜）と百花ハチミツ（百花蜜） 輸入ハチミツ ハチミツの利用（効能効果、調理特性）	
参考資料		

No.	18	
コード	RT07-b	
開講形式	リモート	
区分	生産物	
科目	その他の養蜂生産物	
講師	中村純	
背景	養蜂を通じて、ハチミツ以外にも多様な生産物（副産物）が得られる。	
目的	各生産物の生産方法、利用の実態や市場を理解する。副産物として国内でも生産しやすいものを考え、養蜂生産の可能性を探る。	
概要	蜜ろう、ローヤルゼリー、プロポリス、花粉、蜂毒、蜂の子などの生産物について概要を理解する。副産物としての優位性が高い蜜ろうについても、合理的な生産方法や用途の広さを理解する。	
到達目標	・養蜂副産物の種類と、生産原理、用途について全般的な知識を身に付ける。 ・品質によっては高価なものだが、ロットサイズを得られない点を理解できるようにする。 ・健康食品としての枠組みを理解できるようにする。	
講義内容	多用な副産物、その種類と生産原理 副産物の利用法（利用範囲、効能効果） 副産物の生産規模の小ささ 養蜂業における副産物の位置付け	
参考資料		



No.	19
コード	RT08-a
開講形式	リモート
区分	花粉交配
科目	施設栽培
講師	浅田研一
背景	施設栽培における交配用ミツバチの重要性は、日本の農業において非常に重要な位置づけにある。
目的	ポリネーターとしてのミツバチと施設栽培について理解し、養蜂経営の健全化を目指す。
概要	導入と維持・・・「施設園芸農家向けミツバチの管理マニュアル 2024」
到達目標	・ポリネーターとしてのミツバチを理解する。 ・施設園芸の花粉交配について理解する。
講義内容	養蜂家が知っておきたい花粉交配について基礎知識 ミツバチの生態と訪花活動の特徴 ハウスで利用する場合の留意事項
参考資料	「ハウスでの花粉交配（ポリネーション）用ミツバチの管理マニュアル 2024」日本養蜂協会 HP



No.	20	
コード	RT08-b	
開講形式	リモート	
区分	花粉交配	
科目	露地栽培	
講師	浅田研一	
背景	露地栽培作物にも花粉交配用のミツバチが多数導入されている。	
目的	養蜂における花粉交配の役割を理解し蜂群維持、養蜂経営に役立てる。	
概要	果樹・蔬菜生産，採種，生態系維持	
到達目標	・花粉交配の重要性を理解する。 ・果樹や蔬菜生産，採種とミツバチの関係を理解する。 ・みつばちと生態系の関係をより深く理解する。	
講義内容	花粉交配用ミツバチの貢献 主要作物別の留意点 ミツバチに対する農薬の影響日数	
参考資料	「ハウスでの花粉交配（ポリネーション）用ミツバチの管理マニュアル 2024」日本養蜂協会 HP	



No.	21
コード	RT09-a
開講形式	リモート
区分	経営
科目	養蜂の目的と規模 ハチミツの販売・流通
講師	春日住夫
背景	養蜂には複数の目的があり、経営としてそれぞれの規模を考える必要がある。
背景と目的	養蜂業の経営視点の知識を習得する。
概要	収益目標と飼養・生産規模 卸売り，小売り，流通・販売単位（ロット管理）
到達目標	・セイヨウミツバチの収益目標と生産規模を理解する ・販売形態の違いと流通の単位について知る。
講義内容	収益目標と蜂群について 生産規模と採蜜量 販売形態の違い～卸売り、小売り，流通 販売単位と価格について～ロット管理 持続可能な養蜂を目指すうえで必要な視点とは
参考資料	「やさしい養蜂のはじめかた」みつばち協会 HP YOUTUBE 蜂ちゃんねる



No.	22
コード	RT09-b
開講形式	リモート
区分	経営（中小企業経営、補助事業の申請等について）
科目	養蜂での事業計画、公的資金、助成金損益計算書、貸借対照表の作り方
講師	梶山正信
背景	養蜂を経営する上でも当然のように事業計画が必要となる。
目的	商業簿記３級レベルの基礎的なスキルをベースに、中小法人における経営判断のための財務諸表の流れを理解するとともに、養蜂家としての補助金等の理解の向上を図る。
概要	・農業の個人経営においては、経営において基本となる財務会計や管理会計は重要視されず、税務会計（毎年適宜変わる日本の税務論）だけで、税理士等に言われるがまま、その年での収支で経営判断をしてことが殆どの養蜂家（農業者）である。 ・本当に自分の長期的な経営を数字から客観的に理解するためには、まず財務会計を理解し、特に法人経営であれば、貸借対照表（B/S）をベースに、損益計算書（P/L）とキャッシュフロー計算書（C/F）を理解することで、客観的・的確に自分の経営を見るとともに、それを基にした補助金申請等のための事業計画書等の作成スキルを身につける。
到達目標	・財務会計、管理会計、税務会計の違いを理解する。 ・昨年の自分の経営の P/L から、現在の B/S を作成してみる。 ・５年間の自分の事業における、簡便なキャッシュフローの収支予測表を作ってみる。
講義内容	財務会計、管理会計、税務会計の基本的な考えからの違い P/L、B/S、C/F の内容の意味を理解する 自分の収支予測と他者の収支予測を比較してみる （既に目指す補助事業が決まっている人は）それに合わせた自分の経営における財務計画を作ってみる
参考資料	グロービス MBA アカウンティング（ダイヤモンド社）（※第３章：財務会計の部分のみ）



No.	23	
コード	RT10-a	
開講形式	リモート	
区分	衛生管理	
科目	主要疾病	
講師	渡辺 宏	
背景	ミツバチの主要疾病の知識と適切な衛生管理は養蜂の要である。	
目的	ミツバチの病気に関する知識習得し、適切な対処ができるようになる。	
概要	ミツバチの病気とその対策	
到達目標	・感染症について説明できる。 ・主な病気の発生に気づき適切な対処ができる。 ・病気の予防に必要な対策を講じることができる。	
講義内容	感染症について 法定伝染病について 届出伝染病について 症状の気づきと対策 病気を防ぐ管理	
参考資料	養蜂における衛生管理消毒技術（一般社団法人日本養蜂協会） ミツバチにおける病気の種類と管理方法（一般社団法人日本養蜂協会 HP） 家畜の監視伝染病（農研機構 HP）	



No.	24	
コード	RT10-b	
開講形式	リモート	
区分	衛生管理	
科目	バロア症	
講師	渡辺 宏	
背景	養蜂において、現在最も脅威となっているのがバロア症である。	
背景と目的	ミツバチヘギイタダニをコントロールしバロア症を防ぐ。	
概要	バロア症とその対策	
到達目標	・ミツバチヘギイタダニがミツバチに与える影響について説明できる。 ・ミツバチヘギイタダニのモニタリングができる。 ・ミツバチヘギイタダニの防除ができる。	
講義内容	ミツバチヘギイタダニの生態について ミツバチヘギイタダニがミツバチに与える影響について ミツバチヘギイタダニのモニタリングと結果の見方について 防除の方法	
参考資料	養蜂における衛生管理ダニ防除技術（一般社団法人日本養蜂協会） ミツバチヘギイタダニの生物学 ミツバチヘギイタダニ（とげダニ目：ヘギイタダニ科）の生態およびミツバチ（ハチ目：ミツバチ科）のダニ抵抗性に関する最新の知見	



No.	25	
コード	RT11-a	
開講形式	リモート	
区分	関連法規	
科目	養蜂振興法・家畜伝染病予防法等	
講師	渡辺 宏	
背景	養蜂に関係する法律は多岐にわたる。	
背景	それぞれの法律を学びコンプライアンスの重要性を認識する。	
概要	「養蜂振興法」、「家畜伝染病予防法」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」等から養蜂に関わる部分を理解する。	
到達目標	・養蜂を実施する上で必要な手続きができる。 ・養蜂を実施する上で関係する法令の考え方が理解できる。 ・生き物を飼う責任について説明できる。	
講義内容	養蜂振興法全般の解説及び法律に定められた手続きについて学ぶ。 家畜伝染病予防法のミツバチを対象にした疾病と発生時にやるべきことを憶える 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の規制を理解する 民法 718 条等の趣旨を理解する	
参考資料	e-Gov 法令検索	



No.	26	
コード	RT11-b	
開講形式	リモート	
区分	関連法規	
科目	食品衛生法等	
講師	渡辺 宏	
背景	養蜂を営むことは、食品事業者として活動することでもある。	
目的	食品衛生法を理解し、HACCP を実践できるようにする。	
概要	食品衛生法のはちみつに関する部分を理解し、HACCP の手順や考え方を学び、実践できるようにする。	
到達目標	・食品衛生法のはちみつに関する個所について理解できる。 ・HACCP の仕組みを理解できる。 ・自身の作業場で HACCP を構築できるようにする。	
講義内容	食品衛生法について関係個所を抜粋して解説 なぜ HACCP なのか 一般衛生管理について HACCP の 7 原則 12 手順について	
参考資料	e-Gov 法令検索 はちみつの瓶詰等の製造における HACCP 導入の手引書（HACCP の考え方を取り入れた衛生管理）（一般社団法人全国はちみつ公正取引協議会、一般社団法人日本養蜂協会）	



No.	27
コード	RT12-a
開講形式	リモート
区分	養蜂 GAP
科目	リスク管理の考え方
講師	高安さやか
背景	我が国でも導入が進みつつある養蜂 GAP は、養蜂の規範として、これからの養蜂家を支える軸になると考えられる。
目的	養蜂 GAP の分類と必要性を理解し、リスク管理を行える養蜂家を目指す。
概要	リスク管理の考え方
到達目標	・養蜂経営におけるリスク管理の重要性について理解でき、対応を行える。 ・養蜂作業時、採蜜工程、販売現場それぞれのリスクの抽出ができ、対策を講じることができる。 ・養蜂 GAP を導入し持続可能な養蜂を目指す。
講義内容	養蜂 GAP とは 養蜂 GAP の対象・7 つの取組 養蜂場に潜むリスク～リスクをどう抽出し防ぐか リスク管理表を作成 養蜂 GAP は未来への提案書～選ばれる養蜂場への販売戦略 養蜂 GAP は見えない安全を届けるツール 養蜂 GAP で見えない価値を伝える価値に変える 養蜂 GAP を通じて自分の養蜂場の価値を高めよう
参考資料	「養蜂 GAP 導入の手引書」みつばち協会 HP YOUTUBE「みつばち協会」

養蜂GAPの対象

自主点検



二者点検



三者認証審査

養蜂GAP管理対象と
適合基準2023

項目	適合基準
1. 養蜂場の設置	養蜂場の設置は、養蜂家の安全と養蜂の効率性を考慮し、適切な場所を選定する。
2. 養蜂場の設備	養蜂場の設備は、養蜂家の安全と養蜂の効率性を考慮し、適切な設備を設置する。
3. 養蜂場の管理	養蜂場の管理は、養蜂家の安全と養蜂の効率性を考慮し、適切な管理を行う。
4. 養蜂場の販売	養蜂場の販売は、養蜂家の安全と養蜂の効率性を考慮し、適切な販売を行う。
5. 養蜂場の評価	養蜂場の評価は、養蜂家の安全と養蜂の効率性を考慮し、適切な評価を行う。
6. 養蜂場の改善	養蜂場の改善は、養蜂家の安全と養蜂の効率性を考慮し、適切な改善を行う。
7. 養蜂場の持続可能性	養蜂場の持続可能性は、養蜂家の安全と養蜂の効率性を考慮し、適切な持続可能性を確保する。



一般社団みつばち協会
HPより閲覧可能

次のスライドは→養蜂 GAP の対象は誰？

ニホンミツバチ ・ セイヨウミツバチ
趣味 ・ 業 ・ 学校？

No.	28
コード	RT12-b
開講形式	リモート
区分	養蜂 GAP
科目	よりよい養蜂を目指すために
講師	高安さやか
背景	養蜂 GAP を利用するひとつの大きな目的には自己点検がある。
背景と目的	養蜂 GAP の記録の必要性を理解し、持続可能な養蜂の為の自己点検を行う。
概要	養蜂の記録と保持、自己点検
到達目標	・養蜂の記録の重要性を理解する。 ・生産工程管理の記録や HACCP,GAP の違いを理解する。 ・自己点検を行い記録を振り返り、持続可能な養蜂を行うことができる。
講義内容	自己点検とは 記録の保持 養蜂 GAP のメリット～助成金には不可欠 記録例～プロの養蜂家はどんな記録をつけているのか 養蜂 GAP から見る瓶詰め作業現場と記録 日本の養蜂の歴史とこれから～養蜂 GAP
参考資料	「養蜂 GAP 導入の手引書」みつばち協会 HP YOUTUBE「みつばち協会」



No.	29	
コード	FNLC-a	
開講形式	対面	
区分	アニマルウェルフェア	
科目	ダーウィン養蜂の考え方	
講師	中村純	
背景	養蜂家にとってミツバチは協働するパートナーとして対等な位置づけとなる。	
目的	飼養がミツバチにもたらす問題点を解決していくことが、パートナーシップを構築する上では不可欠なことを理解する。	
概要	畜産分野でのアニマルウェルフェアと養蜂におけるアニマルウェルフェアの異同を学ぶ。 自律生活者のミツバチを飼養することで生じる問題と、それを解消するために養蜂家ができることを学ぶ。	
到達目標	・養蜂におけるアニマルウェルフェアの実現における指針としてのダーウィン養蜂を概観できる。 ・飼養がミツバチに与える問題点を把握できるようになる。 ・把握した問題点に対して、養蜂家がその解消にどう努めるべきかを考えられるようになる。 ・ミツバチとのパートナーシップの構築をイメージできる。	
講義内容	アニマルウェルフェア～畜産と養蜂におけるアニマルウェルフェアの異同 ダーウィン養蜂とは何か～進化医学の視点 ミツバチは消耗されるべき家畜ではない～再生産性の高いミツバチ ミツバチとのパートナーシップを構築しよう	
参考資料	「野生ミツバチの知られざる生活」 「ダーウィン養蜂とミツバチのアニマルウェルフェア」	



No.	30	
コード	FNLC-b	
開講形式	対面	
区分	修了式	
科目	養蜂事業成功事例紹介 ビジネスプランコンテストの優秀プラン紹介	
講師	高安和夫	
背景	養蜂事業には見倣うべき先行事例が豊富にある。	
目的	ベンチャー事業として養蜂を始めるにあたり、各自が成功するためのヒントを得る。	
概要	ベンチャー事業として、地域づくり、農福連携、都市養蜂などいろいろな事例から学び、自分の養蜂を成功するためのヒントを得る。	
到達目標	・自身の養蜂事業の成功イメージを想起できる。 ・事業遂行のための課題を把握できる。 ・課題解決に必要なヒントを、成功事例等を参照して得ることができる。	
講義内容	ベンチャー事業として養蜂を始めた事例から、成功のヒントを解説する。 地域ブランドづくり、農福連兼の成功事例、都市養蜂についての事例から考察する。 受講生が作った養蜂ビジネスプランの優良事例を紹介し、皆でブラッシュアップする。	
参考資料	「やさしい養蜂のはじめかた」みつばち協会	

